

伊東市版「ぐるりん交通」事業計画案

1. 本事業の基本コンセプト

伊東市においては、新旧住民の高齢化に伴い、日常的移動が困難な「交通弱者」が増加し、今後も増えていくことが確実である。これに加え、二拠点移住者や内外の観光客、とりわけ増加しているインバウンド客も「交通弱者」となっている。さらには、子どもの通学において送迎を担う保護者も多く含まれる。

本事業は、これらの多様な交通ニーズを受け止めるため、限定された区域内を走る巡回バス制度として構想する。

特に、伊東市独特の豊かな自然環境の中に諸文化施設が散在し、広大な別荘地・分譲地に多数の高齢者が済むという条件において、他地域のコミュニティバスとは違う、文化・観光・福祉融合型の伊東市型コミュニティバスとする。

幹線・主要路線を使う移動は東海バスが担いつつ、バス停まで行くことが困難な高齢者等の「ラストワンマイル」の補完的な移動手段を提供する。

各自治体の地域公共交通は、路線バス、コミュニティバス、オンデマンドタクシー、一般タクシーをそれぞれの実情に応じて組み合わせて成り立っている。伊東市においては、その産業構造、移動ニーズ、地理的条件等から、これらの組み合わせはいっそう多様なものになる。

「東海バスと競合する無料・低額バス」ではなく、「東海バスを利用するための無料・低額フィーダー交通」と位置づけ、「交通空白地支援タクシー・バス」にする。

市民の福祉向上、来訪客の利便性向上に寄与することから、伊東市の支援を求める。

伊東市の交通計画との関連では、令和8年度計画には、東海バス乗継券、生活路線との運行最適化、交通弱者対応が明記されている。

注：本構想は、高崎市（人口36万人）の「おとしよりぐるりんタクシー・ぐるりん号」を参考にしている。それは、高齢化率の高い地域において、9ルートを設定し、各ルート上はどこでも乗り降り自由、利用料無料、事前予約・利用登録不要という、全国でも稀な地域交通補助手段である。高崎市では、これと合わせて、やはり同様な仕組みの、中心街を周回する「お店ぐるりんタクシー」（商工振興課）も運行している。

2. 「伊東ぐるりん号」の候補地域

伊東市の地域公共交通計画では、鉄道・路線バス・デマンド型交通による人口カバー率は70.3%で、郊外、山間部、別荘地・分譲地などに交通空白地域が残っている。市自身も「路線バスの停留所等から離れた交通空白地域対策」を課題として挙げている。

、

同時に、伊東市の独自の移動形態として、来訪客の移動が困難な状況があり、観光客の潜在的需要を引き出す課題がある。

特に、伊東市南部は、観光施設・スポットが散在していて、それらを結ぶバス便があれば、伊東市の観光魅力が増すことになる。

したがって、「伊東ぐるりん号」は、東海バスの路線がある場所は原則として走らずに、特に、バスでは入りにくい住宅地や狭い道路を走るルートを設定する。東海バス利用者を増やす可能性がある。

「伊東ぐるりん号」が走る区域を次に示す。

1) 定時巡回型：別荘地・分譲地が広く、高齢者・観光客の移動課題が大きい

・伊豆高原・城ヶ崎 A～E ルート

・荻・一碧湖（十足・イトーピアを含む） F ルート

・伊豆高原・一碧湖・大室山 H ルート（三主要観光スポット間の周回バス）

2) フィーダー型：旧来の住宅・マンション居住者が多いにもかかわらず、地形的に大型バスが通行できない地域の生活の足とする

・宇佐美 山側住宅地と駅・バス路線との距離 ルート未定

・川奈 |住宅地と医療・買物施設との接続 G ルート

・伊東駅裏（松原・岡）住宅地と医療・買物施設との接続 ルート未定

3. 運行車両と台数

上記7コースに、1)は、8人乗りミニバン、2)は6人乗りタクシー型車両を各1台配置し、1コースを30分で回り、30分間隔、1日12便を基準とする。

4. 年間費用

1) 年間運行費の概算

市への提案額として、7台・7地域程度で年間9,000万円前後を一つの基準にする。

その内訳

費目	7台年間
運転者人件費・謝金	5,000万円
車両リース・減価償却	1100万円
燃料・電気	700万円
車両整備・保険・車検	900万円
運行管理	600万円
予約・配車システム	400万円
事務・広報・その他	400万円
合計	約9100万円

5. 料金設定

高崎市ぐるりん号は無料だが、伊東市の場合は、観光移動手段でもあるので、無料・有料の区別をつける。

＊A案：高齢者等は0円、観光客は200円。（ただし、本事業加盟施設利用客は無料）

観光客の年間利用者が例えば2万人なら、運賃収入約400万円。

＊B案：伊東市民は原則100円、観光客は200円（ただし、本事業加盟施設利用客は無料）
市民の年間利用10万人なら、100円×10万人＝1,000万円
の運賃収入増になる。

＊現金管理・釣銭管理の手間を省くために、スイカ、キャッシュレス端末利用を原則とする。

6. 既存交通（東海バス）との関係

東海バスの利用者を増やすための非幹線交通、フィーダー交通として、市に負担を求める。
原則として、既存バス路線を代替しない。

具体的には、東海バス停まで送り、伊東駅などに乗り継いでもらい。そのため、東海バスとの乗継券を作る。

東海バスが受託可能なら、運行費を市が負担する。つまり、東海バスには「運行事業者」として参加してもらい、市が運行費を負担し、東海バス・タクシー会社等の交通事業者に運行を委託する方式となる。

7. 通学手段としての利用可能性

対島地区では、学区が広いために、約7割の保護者が子どもの送迎を行っている。このような地域の教育条件を改善するうえで、「ぐるりん号」を通学手段としても使えるかを検討する。

8. 各種の補助制度の活用

1) 国土交通省は令和8年度「交通空白」解消等リ・デザイン全面展開プロジェクト」を実施している。

対象には、公共ライドシェア、デマンド交通、乗合タクシー、医療・福祉等との連携などが含まれている。([国土交通省 交通管制システム])

2) 「地域公共交通確保維持改善事業」

これは、地域の多様な関係者が協働して、生活交通を確保・維持する取り組みを支援する制度である。([国土交通省])

特に、地域公共交通計画に位置付けた地域内フィーダー系統については、国庫補助制度がある。中部運輸局も現在、地域内フィーダー系統の申請様式等を公開している。([国土交通省 交通管制システム])

3) 国には令和8年度から「地域内観光フィーダー系統補助」もある。

これは、生活交通に加えて観光の二次交通として位置づけたデマンド交通等を支援する制度で、補助率は1/2以内である。([国土交通省 交通管制システム])

4) 静岡県の補助制度

県の「市町自主運行バス事業費補助金」は、市町が主体的に運行する場合の欠損額を対象とし、伊東市は、財政力指数0.6であり、1.0未満の市町という条件に該当し、補助率1/2となる。

(参考:「地域公共交通に関する補助制度について」令和8年5月北陸信越運輸局交通政策部交通企画課

https://www.tb.mlit.go.jp/hokushin/content/000374589.pdf?utm_source=chatgpt.com)

9. 財源構成

仮に年間9,000万円とすると、目標としては、下表になる。

財源	金額	割合
国庫補助	3,000万円	33%
静岡県	1000万円	10%
伊東市	3,500万円	39%
加盟施設	500万円	5%
利用者負担	1000円	11%
合計	9,000万円	100%

(ただし、これは制度上確定した補助率を当てはめたものではなく、事業計画上の目標財源構成である。特に国の「交通空白」解消プロジェクトは公募・採択型なので、毎年必ず2,000万円もらえるという意味ではない。)

10. 東海バスとの協定

東海バスとの間に「伊東市地域交通連携協定」を結ぶ。

内容は、

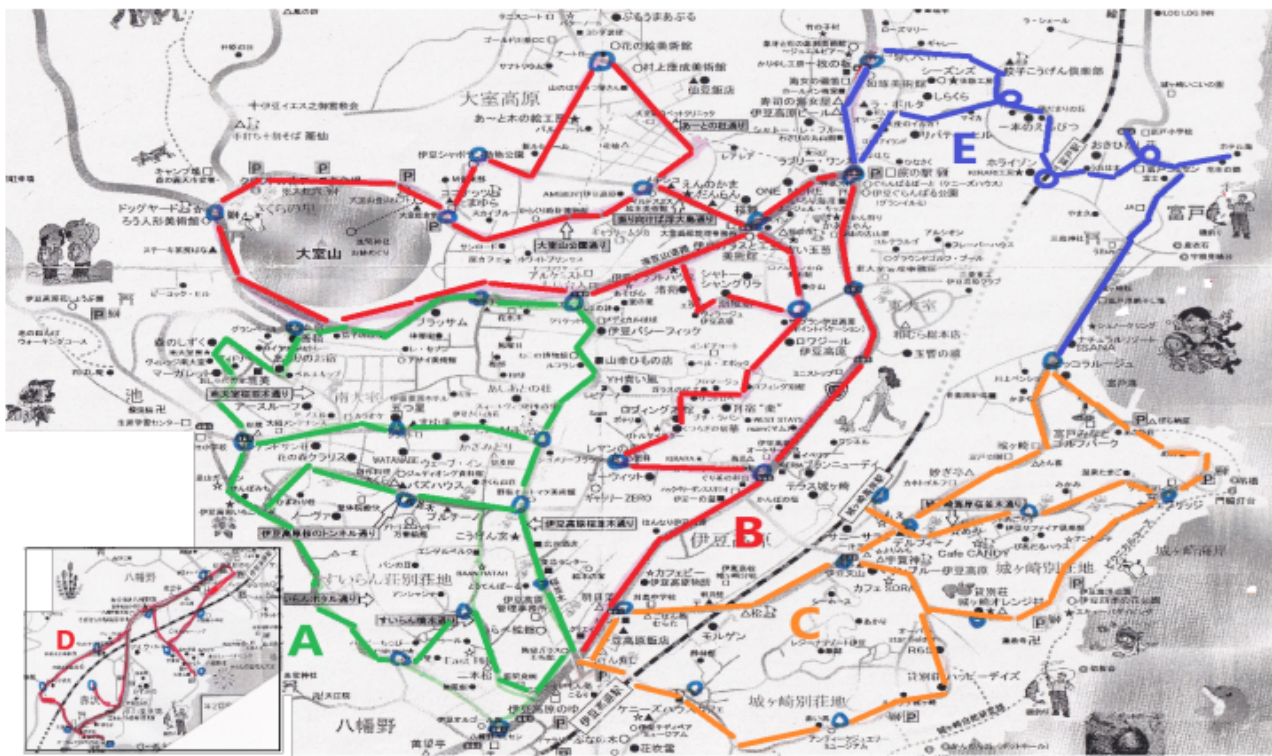
1. 無料交通は既存バス路線を原則代替しない
 2. 東海バス停との接続を基本とする
 3. 東海バスへの乗継を促進する
 4. 東海バスの路線廃止を誘発するような運行をしない
 5. ルート変更は東海バスと協議する
 6. 乗継利用者数を共同で把握する
 7. 東海バスへの運行委託を優先的に検討する
 8. 毎年度、共同で効果検証する
- とする。

11. 3年間の実施スケジュール

- ・令和9年度：実証段階 先行3地域
- ・令和10年度：本格実装 5～7地域に拡大
東海バスとの正式な連携
- ・令和11年度：全体への展開
伊豆高原・別荘地型交通を拡大
東海バスとの乗継ネットワーク化
観光二次交通との連携

伊東ぐるりん号ルート図

伊豆高原 MaaS ルート図 (A~Eルート)



* 萩・一碧湖ルート (Fルート)



<通過地点>

萩交差点 (出発地) ⇒ ロワジール伊豆一碧 ⇒ 大池小 ⇒
 ファミリーマート ⇒ 一碧湖畔 ⇒ イトピアB地区 (周回) ⇒
 池田20世紀美術館 ⇒ イトピアA地区 (周回) ⇒
 イトピアA地区くぬぎ通り (周回) ⇒ 一碧湖神社 ⇒
 大池小 ⇒ ロワジール伊豆一碧 ⇒ 萩交差点 ⇒
 マックスバリュ ⇒ 萩分譲地 (周回) ⇒ 萩交差点 (終点)

* 川奈ルート (Gルート)



<通過地点>

川奈港⇒川奈住宅街⇒川奈出張所⇒川奈駅⇒川奈口⇒ニトリ・デュオ⇒伊東高校⇒小室山⇒吉田交番⇒吉田幼稚園
⇒ファミリーマート⇒一碧湖畔

＊伊豆高原・一碧湖・大室山周回ルート（Hルート）



<通過地点>

伊豆高原駅⇒桜並木⇒野村オートマタ美術館⇒大室高塚⇒大島台入口⇒大室高原2丁目⇒大室山リフト・シャボテン公園⇒大室高原2丁目
⇒理想郷東口⇒先原三里⇒初島台⇒池田美術館⇒一碧湖畔⇒ファミリーマート⇒大池小学校⇒ロワジュール伊豆一碧⇒荻交差点
⇒ろう人形館⇒池小学校前⇒マックスバリュ⇒伊豆高原駅やんも口⇒伊豆高原駅